

講演会型(小学校・中学校・公民館連携)



親は同じ

一つの中学校区のすべての小中学校が一緒に家庭教育学級に取り組むことは効果的です。小さい学校で構成されている場合は特に、運営の資金を大きくできます。小学校は異なっても、進学する中学校は同じ。地域ぐるみで子育てをする意味でも、同じ家庭教育を一緒に学ぶのは言わば当然です。



公民館が関わっている

この家庭教育学級には公民館が大きな役割を果たしています。1年で変わってしまうPTA役員には荷の重い、講師の選定や年間計画の作成なども、公民館ならお手のもの。一方、人を集めることや広報などは、小中学校には容易なことです。学校と公民館が持ちつ持たれつの関係で取り組まれています。

公民館の役割の一つは地域のひとつづくりで、数年先を見通しながら計画的に取り組まれるものです。家庭教育についてもその考え方で、数年かけて取り組む内容を工夫したり、小学校から中学校までの9年間を見通した意図的な配慮をしたりすることもこの取組の良さといえます。

Table with 2 columns: 学校名等 (福岡公民館), 実施日時 (令和3年11月12日), 会場 (福岡中学校・福岡小学校), 参加人数 (合計約250人), 学習課題 (子どもを取り巻くネット環境), 運営者の願い (子どもを取り巻くネット環境の現状と、適切な対応の仕方について、学ぶ機会としたい。)

学習の内容

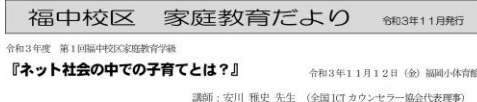
<中学校区家庭教育学級とは>

福岡公民館は、福岡中学校と中学校区にある4つの小学校(現在は学校統合により3小学校)と中学校のすべての保護者を対象にして、家庭教育学級を運営しています。講師の選定や、資料の準備などは公民館が、保護者への呼びかけや通信の発行など事後の啓発などは学校が担当しています。

平成29年からこの方法で運営を始めて、今年度で5年目になります。

<講話について>

この講演会は、中津川市生涯学習スポーツ課が講師を3日間で8か所学校等に派遣する事業の一環で、福岡公民館がそのうちの2講演を活用しました。中学校では授業時間に保護者とともに生徒が講演を聴きました。同日夜、会場を小学校に移して、中学校区の小中学校の保護者を対象に講演会が行なわれました。



10月に行われる予定であった第1回の家庭教育学級講演会がコロナ感染防止のため中止となりましたが、今回の講演会は、講師の安川先生をお招きし、無事に行うことができました。

【事前】「情報に敏感化する子ども達に」... 【質疑】「講師や安川先生から寄せられた問い」... 【感想】「LINEによるネットいじめ」...

<編集後記>

講演中、何度も参加者に訴えかけていた安川先生。起きてしまった命に関わるようなトラブルを自分の目で見て、聞いて、関わったからこそ抱くことのできる「危機感」からにじみ出た訴えだと感じました。今、私たちの子どもは目の前で生きています。その命を守るのは私たち大人です。大人自身の情報端末への関わりを振り返ると共に、子どもが持っている情報端末にも大人が責任を持ち、「ネット社会の子育て」に子どもの顔を見ながら向き合っていくべきだと改めて思いました。

Callout boxes containing text from the lecture slides and a testimonial from a parent: '家庭教育学級後に発行された校区家庭教育だより'.

<保護者の感想より>

- > セキュリティの大切さ、ウイルス対策の必要性!! 子どもに対しての言葉使いを大切にすること。強い詰めるような言い方をしないように説明をする大切さ。大人が子どもの手本になるようにもって気を付けなければならないと思いました。
> 子どもが何でも話をできる環境をつくろうと思いました。子どもと向き合えるように心がけたいです。
> 命を大切にすること、家族を大切にすることが大事だと思いました。
> 子どもは親の背中を見て育つ。自分の事をどれだけ見てくれているのか、子どもたちは言わないだけで感じていることがたくさんあるのだと思いました。
> 我が家もゲームをオンラインでやったり、友達とLINEをしたりしていますので、親もきちんと目を配らせ、頭ごなしに言わずに子どもに気持ちを伝えていきたいと思えます。
> 子どもの世界に近づくこと、見ている世界を知ること、一緒に楽しむこと、大切だなと思いました。